気仙沼の被災地
杉の下地区から岩井崎へ

　贈呈式終了後、視察団は階上まちづくり協議会辻会長、シャンティ国際ボランティア会白鳥さんの案内で気仙沼市本吉地区の被災地視察を行いました。最初の視察地は気仙沼市階上地区にある杉の下地区。震災前は住民３００人が暮らし、日本百選の海水浴場にも選ばれた白砂青松の「お伊勢浜海水浴場」がある風光明媚な集落でした。津波で８０戸あった住宅はすべて流され、行政指定の避難場所に避難した９３名全員の命が失われた階上地区最大の悲劇の場所。住民の方々が避難した高台に「絆」と題した慰霊碑が建立されていました。

『　絆　』

　あなたを忘れない
　ここに居れば大丈夫だ
　しかし、無常にも第一波で
　下手から家や車が押し寄せ
　そして、第二波、第三波が・・・
　九十三名の尊い命と
　すべての財産が海へと散った
　あの一声が無情の叫びに
　私たちはあなたを忘れない
　今までありがとう
　こころやすらかに

慰霊碑前で説明を聞く視察団

津波到達地点を見上げる会長

白鳥さんの説明を聞く視察団

被災当事の姿を残す向洋高校

慰霊碑の裏には９３名の名前と年齢が刻まれています。

　次の視察地は「地福寺」、この震災でお寺の周辺では１８８名の方々が亡くなっていることから、お寺の入口に津波の高さのお地蔵様が建立されて「いのりの広場」として立ち寄る人々が海に向かって手を合わせていることや本堂には被災物故者の方々の遺影が並び、ホールには被災当事の貴重な写真や全国各地のボランティア団体などのメッセージが展示されているとのお話をお聞きしました。

　その後、私たちは、被災当事の姿を今なお残す「気仙沼向洋高校」を車内から視察、震災の津波で４階建ての校舎の４階まで浸水したこと、３階には津波で教室に流されてきた車が今もなお残っているとのお話を聞き、津波の破壊力の凄さを改めて実感いたしました。地震発生時、学校には１７０名の生徒が部活動などで校舎にいましたが、先生方の誘導で指定避難場所である地福寺、津波の襲来でさらにＪＲ階上駅に避難したことで、生徒、教師全員無事であったこと。現在、気仙沼市では東日本大震災の記憶を後世に伝える「震災遺構」として向洋高校の特に被害の大きかった南側校舎を現状のまま保存することを決めたとの説明をお聞きしました。

　１８日最後の視察地は「三陸復興国立公園岩井崎」ここには、テレビ等で紹介され一躍有名になった「龍の松」、「第９代横綱秀の山」の銅像、さらに多くの松が津波に負けずに残っていました。残念なことに、津波の難を逃れた松の多くが、松喰い虫の被害で枯れる寸前に追い込まれていることでした。

　初日の視察を終え、視察団は当日お世話になる「民宿辻建」へ、民宿辻建さんは津波で家を流され、３年半を経過し、高台の現在の地に再建されたばかりとのこと、辻さんご一家が笑顔で私たちを出迎えてくれました。

龍の姿にそっくりです

岩井崎での集合写真

南三陸町仮設住宅
七自治会への贈呈式
懐かしい笑顔に会えました！

　南三陸町仮設住宅七自治会への贈呈式は、昨年と同じ登米市にある南方第一期仮設住宅集会所において行われました。

　贈呈式に先立ち、視察団は東京災害ボランティアネットワーク福田さんの案内で、仮設住宅内を視察、仮設住宅は４年が経過し、気密性や保温性など居住環境が悪化しているとの説明を受け、災害公営住宅などへの早期移転の必要性を痛感いたしました。

　１２時３０分からの贈呈式は、七自治会１６名の役員の方々が出席され、友の会野嶋幸光事務局長の経過報告に続き、鈴木政雄会長から「昨年の贈呈式で、義援金は自由に使ってくださいと挨拶しました。各自治会では義援金の使い道を話し合うなかで、住民同士の結束が大いに強まったとの話を聞いて大変嬉しく思っています。今回の義援金も皆さんが元気になるよう自由に使っていただきたい」と挨拶した後、七自治会を代表して、南方第一期仮設住宅自治会宮川安正会長に義援金目録を贈呈いたしました。

仮設内を視察する視察団

挨拶する鈴木会長

宮川会長へ目録贈呈

　続いて、宮川会長から「サンタクロースが来たようで大変うれしい。仮設から一歩踏み出せない方々を踏み出させるためのイベント（お花見・紅葉狩り・日用品の配付等）を色々考え実施できた。言葉では言い表せないありがたさを感じている。今後も皆で頑張っていきたい」と謝辞がのべられました。

　その後、昼食をとりながらの交流会では、南方第二期仮設住宅自治会佐藤清太郎会長から、義援金で防災意識を高めるため、全戸に非常持出し袋の配付、仮設住宅の周りに花を植え、環境美化に努めたことで県の花のあるまちコンクール「災害公営住宅コミュニティづくり賞」を受賞したとの話など、各自治会役員の方々から、義援金を使った取組みについて、お話をいただきました。

　交流会の終了が近づいてきた時、芳口富士夫代表委員（東京）の呼びかけで、参加者全員による北上夜曲の大合唱がおこなわれ、約２時間にわたる贈呈式は和やかな雰囲気のなか終了いたしました。

　視察団一同は、七自治会役員の皆さんの見送りを受けながら、一路、くりこま高原駅に向かいました。

　なお、贈呈式の模様は５月２８日の「河北新報」で紹介されました。

懇談風景

7自治会の皆さんと

北上夜曲の大合唱